

令和7年12月15日付【日本水道新聞】

関東支部＜体験交え理解深める＞

研修を遠山鉄工所で

水コン協関東

体験交え理解深める

研修を遠山鉄工所で

全国上下水道コンサルタント協会関東支部は11月25日、遠山鉄工所本社・久喜工場で第18回水道関係者現場技術研修会を開催した。研修会は、水道コンサルタントの資質向上を目指して同支部が平成17年から実施しているもの。若手を中心に31人が参加し、現場研修を通じて技術の習得・研鑽を図った。

研修で参加者らは、工場の説明を受けた後、実際に見学。ダクタイル鑄鉄異形管の製造工程を学んだ。また、同社のダクタイル鑄鉄製フランジアダプター（高性能ルーフランジ短管）「TOYAMA TIFアダプター」によるダクタイル鉄管の接合を体験。座学による同製品の詳説も受け、理解を深めた。

同工場は、実際の管と同一形に製造した模型の周りに砂を固めて鑄型を作る「現型」と、木枠や板を用いて二つひとつ手づくりする鑄造造形方法「カキ型」でダクタイル鑄鉄異形管を製造している。カキ型を用いて製造できるのは同社のみ。羽生工場と合わせて、全盛（75～2600mm）の口径の異形管をワンストップ



天野委員長



遠山代表取締役

で製造でき、大口径のダクタイル鑄鉄異形管の分野では、国内で圧倒的なシェアを誇る。規格外の角度に対応した曲管等も製造可能。

「TOYAMA TIFアダプター」は、フランジ継手をフランジに植込みボルトで固定するもの。フランジ継手が伸縮性を持っており、調整空間を有している。球形座金を使用することで、斜めになっても固定可能。K型ゴム輪と同等形状のTIFゴム輪により、高い水密構造を実現できる。

冒頭、同社の遠山善彦代表取締役があいさつ。「異形管の工場を直接見



管接合に臨む参加者ら

る機会が少ないのではないかと述べ、その上で「手づくりだからこそ、何でもできる」というところをこらえた。天野幹大委員長（NJS）はぜひ経験を積み、通常の業務に生かしていただけたら」と期待を込めた。